

標 題 : Relative validity of semi-quantitative food-frequency questionnaire in an elderly Mediterranean population of Spain
スペインの高齢地中海沿岸住民における半定量食事頻度アンケートの相対的な妥当性

著 者 : J. D. Fernández-Ballart, et al. (スペイン ロビラ・イ・ビルジリ大学
医学・健康学部 予防医学・ヒト栄養科)

掲 載 誌 : Br. J. Nutr. 2010 Jun; 103(12): 1808–16

要 旨 :

本研究の目的は、PREDIMED 研究〔高い心臓血管系リスクの人々での地中海食事による心臓血管系疾患一次予防の臨床試験〕で使用した自己申告の食事頻度アンケートの再現性および想定的な妥当性を評価することであった。

食事頻度アンケートを1年に2回実施して(食事頻度アンケート1と2)再現性を検証した。

4回の3日間食事記録を参考に用いて妥当性を検証した；そのため参加者は12日間の食事摂取を1年間に記録した。

食事頻度アンケートの誤分類の程度も、食事頻度アンケート2と食事記録からの情報を比較した5段階分割表によって評価した。

合計158人の男性と女性(55–80歳)に、研究期間中に食事習慣を変えないようにと要請した。

ピアソンの相関係数(r)で検証した食品群、エネルギーと栄養素の摂取に関する再現性は0.50–0.82の範囲であり、群内相関係数は0.63から0.90の範囲であった。

食事頻度アンケート2は、食事記録よりも高いエネルギーと栄養素の摂取を報告する傾向であった。

食品群およびエネルギーと栄養素の摂取について食事記録と関連した食事頻度アンケートの妥当性指数は0.24から0.72の範囲(r)であり、群内相関係数は0.40と0.84の間であった。

食品群に関して、68–83%の人々は両方の方法で同じまたは隣接した5段階であり、エネルギーと栄養素の摂取では数値が55–75%に低下した。

他の追跡研究で使用した食事頻度アンケートの測定値と同様に、食事頻度アンケートの測定値は良い再現性および相対的な妥当性を有すると、我々は結論づけた。

キーワード : 妥当性、再現性、FFQ(食事頻度アンケート)、食事記録、地中海沿岸住民、PREDIMED 研究、スペイン
